

propoasal

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会様

# アニマルウェルフェア（畜産動物の福祉） を向上させる価値

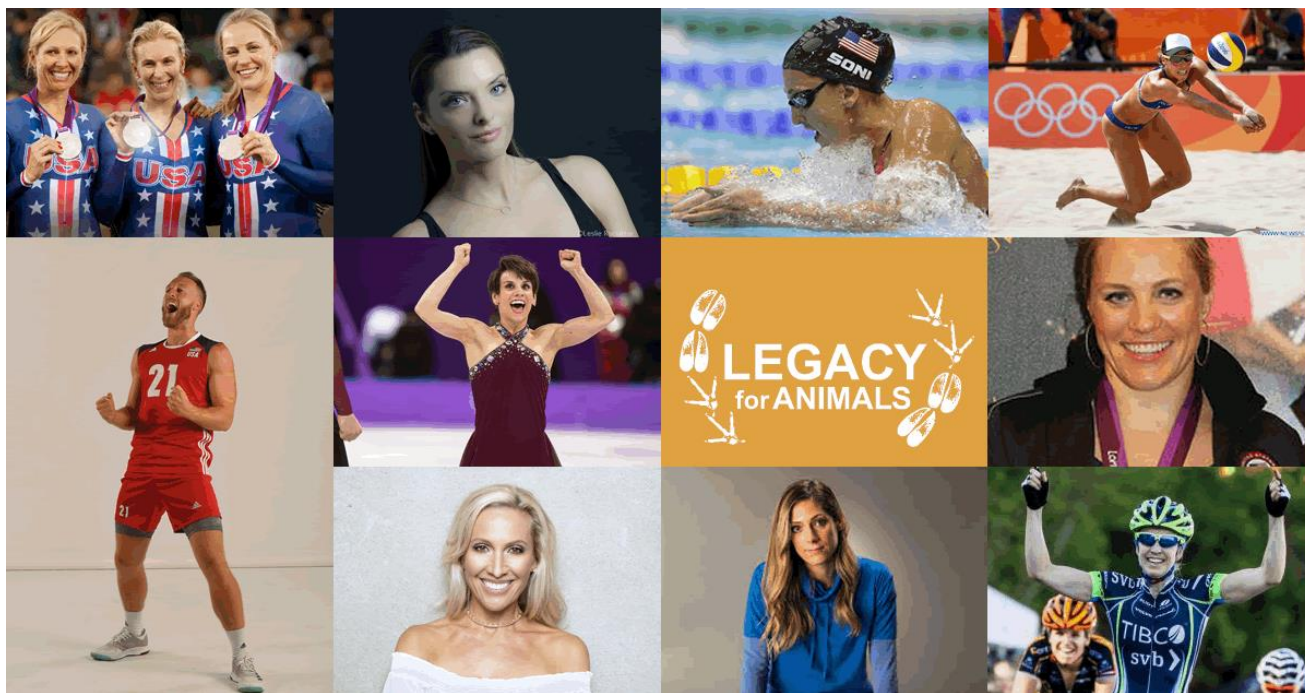
NPO法人アニマルライツセンター  
東京都渋谷区宇田川町12-3ニュー渋谷コーポラス1009  
03-3770-0720  
<https://arcj.org>  
代表理事 岡田千尋      [okada@arcj.org](mailto:okada@arcj.org)

# 東京五輪の反省

東京五輪ではオリンピックや世界中の動物保護団体、消費者団体などからのプレッシャーはあったものの国際水準のアニマルウェルフェアに達しなかった

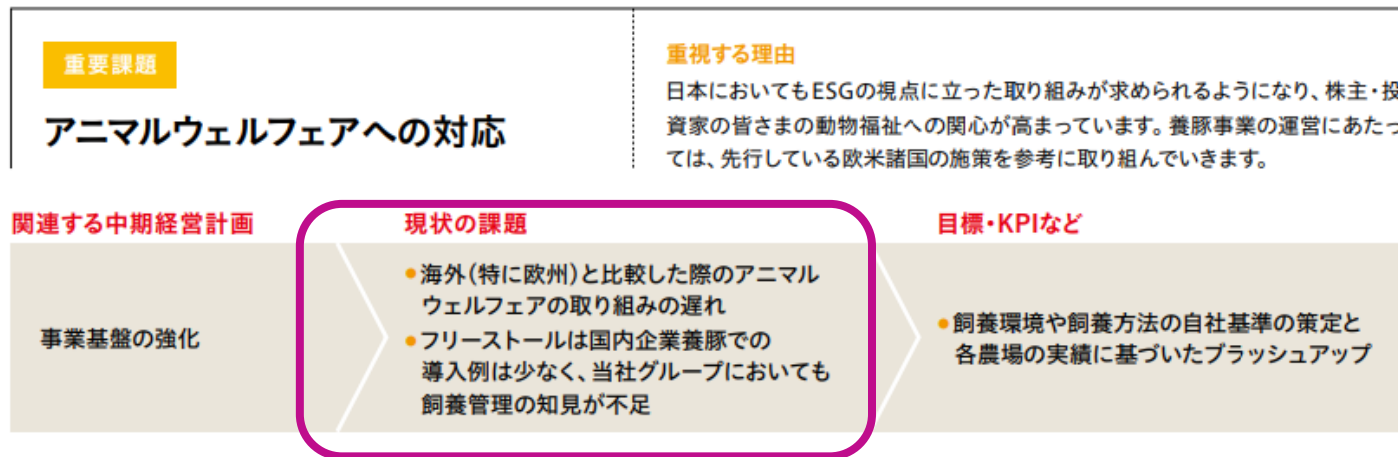
しかし当時、現場では平飼い卵の調達が意識されており、アニマルウェルフェアの高い基準が策定されていれば調達はできたと思われる

日本の畜産のレベルアップの機会であったが、残念ながら活用しきれなかった



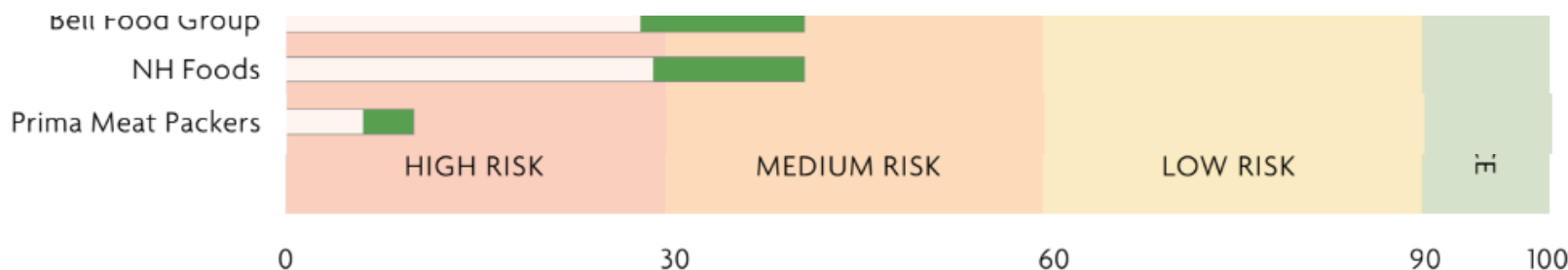
# まずは日本の遅れを認め、その上で基準を策定してください

例：プリマハム 統合報告書より



## 具体的な改善につながる目標・コミットメントを策定すること

FAIRRエグゼクティブサマリーより



具体的な基準とコミットメント策定まで進んだ日本ハムは、投資家向けイニシアチブFAIRRの評価で、投資リスク評価がハイリスクからミドルリスクに改善した。

# 日本のアニマルウェルフェアの遅れは明白、向上は可能か？

日本の畜産における  
動物保護評価

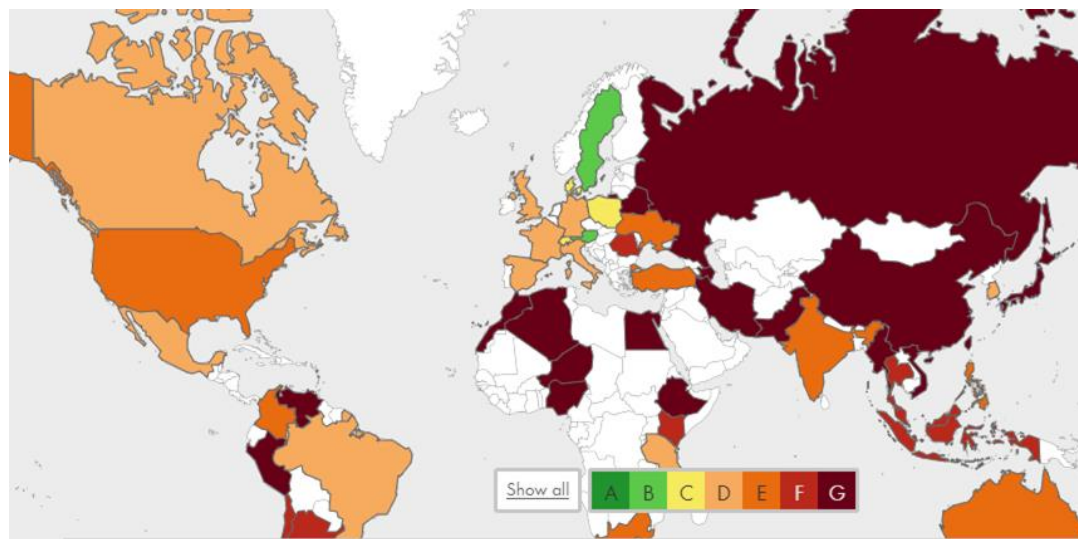
## 日本の評価

### 最低ランクのG

世界14か国に拠点を持ち、国際的な動物保護活動を行う**WAP**（世界動物保護協会）が、発表した**2020年版か国の動物保護指数（A P I）**。  
対象となったのは50か国。

|   |                                                                                                           |
|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A | －                                                                                                         |
| B | オーストリア スウェーデン                                                                                             |
| C | ニュージーランド スイス ポーランド デンマーク オランダ                                                                             |
| D | 韓国 タンザニア スペイン フランス イギリス ドイツ イタリア<br>カナダ ブラジル メキシコ                                                         |
| E | インド フィリピン オーストラリア 南アフリカ ウクライナ トルコ ア<br>メリカ コロンビア                                                          |
| F | タイ インドネシア ケニヤ ルーマニア マレーシア アルゼンチン チリ<br>ウルグアイ                                                              |
| G | <b>日本</b> 中国 ロシア エジプト ニジェール エチオピア ナイジェリア<br>アルジェリア モロッコ ベラルーシ イラン パキスタン ミャンマー ベ<br>トナム ベネズエラ ペルー アゼルバイジャン |

例：  
世界的なファストフードチェーンであるサブウェイは、世界的なケージフリーコミットメントを出す際に、「中国、日本、ロシア、ウクライナを除く」とした。  
ジャパンブランドと言いながらも、実際にはアニマルウェルフェアが低いことは世界で知れ渡っている。



# 倫理を優先させる先に、利益が生まれる時代

## 倫理



## 利益

「サステナブル・リビング・ブランド」は、他の事業と比較して69%早く成長を遂げ、同社の成長の75%を占めている（ユニリーバ）

社会課題の一部であり続けるのではなく、  
社会課題の**解決の一部**になるほうが  
企業のブランドを高める



アニマルウェルフェアのポリシーを持つ企業が出てきた。また、サステナビリティの項目、総合レポート、CSRレポート等々にアニマルウェルフェアが掲載されるようになっている

# 国際水準のアニマルウェルフェアをコミットするメリット

- ✓ **国内の企業の評価を上げられる** → 日本製品の新たな価値の創造は必須、味や価格だけでは評価されにくい時代がくる
- ✓ **国内企業の海外展開へのハードルを下げることに繋がる** → 海外展開をする企業のロールモデルになる
- ✓ **意欲のある企業を支えられる** → 良い取り組みへの後押しができる + 良い取り組みをする生産者が評価される
- ✓ **国内畜産業の未来の持続性につながる** →
- ✓ **生産者に準備期間を与えられる** → 早期にコミットを発表することで新たな参入も可能
- ✓ **特に若い人と女性の評価を得やすい** → 若い人の動物への関心は高い
- ✓ **リスクマネジメントになる** → なにかの問題があった際にも別の良い取り組みがあると快復しやすい
- ✓ **SDGsの取り組みの様々なゴールに寄与できる**



# 国際水準のアニマルウェルフェアを目指さないリスク

## 企業価値の喪失

すでに外資系企業の評価が高く、国内企業の評価は低く出ている。国内企業がアニマルウェルフェアの高い畜産物を手に入れられないことが、企業の政策を躊躇させ、評価の低下を助長している。

## 投資を得られなくなる

世界が求める水準のアニマルウェルフェアを目指していないと考えられる（コミットメントしていない）企業は機関投資家等からの投資を得にくい。

## 国産ブランドの低下

他国の畜産物の方が質が良いことは、徐々に国民にも、また輸出先でも広まっていく。現在の国産はいいという曖昧な評価を維持するためには、実情も上げていく必要がある。

## 日本の畜産の更なる遅れ

国内で評価を得られる畜産物を調達できない場合は、肉製品は海外からの輸入で賄うことが可能。日本の畜産物に魅力がなくなり、更に国内畜産業は新たな設備投資ができない運営に陥る。

## 企業の足を引っ張る畜産業であってはならない

# 国際水準のアニマルウェルフェアの実現でチャンスに変えてください

## 企業価値の喪失

- 企業価値の向上
  - 質の高い畜産調達の実現化
- = 海外進出への好機
- る。

## 投資を得られなくなる

### ESG投資の獲得

ESGを指していないと考えられる（コミットメントしていない）企業は機関投資家等からの投資を得にくい。

## 国産ブランドの低下

### 日本ブランドの裏付けまたは挽回

維持するためには、実情も上げていく必要がある。

## 日本の畜産の更なる振興

### 新たな畜産技術の早期実現による国内畜産の振興

国内畜産業は新たな設備投資ができない運営に陥る。

企業価値を一緒に作っていける畜産業へ



# 国際水準のレベルを取り入れなければ評価を得られない

世界的に進むケージフリー、ストールフリー、タイフリー、ベターチキンを採用又は目指すことで初めて、評価を得ることができる



## 卵はケージフリー

EUで生産される卵は液卵含め55%が平飼い・放牧卵。米国も36%の卵がケージフリー。  
ブラジル、韓国、タイ、シンガポール、メキシコなど、ケージフリーが進んでいる。



## 肉用鶏は飼育密度改善と気絶処理

EUは原則33kg/m<sup>2</sup>、ブラジルの平均は28kg/m<sup>2</sup>、タイ国の基準は20～33kg/m<sup>2</sup>の飼育密度。日本の大手企業54kg/m<sup>2</sup>。ベターチキンには500社以上が移行を表明している。



## 豚はストールフリー

EUは2013年から妊娠ストール（母豚の拘束飼育）禁止、その他複数国が続く。大手食肉企業(世界1～8位の企業)が2025～2030年までには妊娠ストールフリーに移行する。



## 牛は繋ぎ飼いでフリー

世界的に繋ぎ飼育は古い飼育方法としてほぼ廃止。常時舎飼いで、放牧しないことが批判されるようになっている。  
牛の健康や生産効率の面でも、繋ぎ飼いにメリットは見いだせない。

# 卵はケージフリーが最低ライン

産卵期間の400日～600日をすぎると、ケージ飼育は鶏たちは心身ともにぼろぼろ  
ケージフリーへの取り組みはアニマルウェルフェアの最も基本的な対応

## ワンヘルス

- ・ バタリーケージは死亡率が有意に高い・ ケージ飼育はサルモネラ菌繁茂の割合が高い

## 経済・投資

- ・ EUは2027年に全てケージフリー、米国は2025年以降77%がケージフリーに切り替わる
- ・ 中国含めたアジア、中南米などのケージフリーコミットメント増加中
- ・ 機関投資家向けの評価（BBFAW）の指標ではケージフリー（＝エンリッチドケージなどは評価されない）
- ・ 農家が評価されないエンリッチドケージに今から設備投資することは二重投資になってしまう

## ケージフリー



放し飼い、放牧



平飼い



エイビアリー



ケージフリーでの運用  
コンビシステム

## ケージ飼育



ケージでの運用  
コンビシステム



エンリッチドケージ



バタリーケージ





# 鶏肉は国際水準の飼育密度＋スタニングありの屠畜が最低ライン

ブロイラー飼育における争点は、飼育密度、品種、屠畜時のスタニング方法

## ワンヘルス

- ・ 飼育密度が高いと障害の割合が高くなる、死亡率が高くなる、成長が遅くなる
- ・ EUは「アニマルウェルフェア、抗菌物質の使用、及び工業型ブロイラー畜産が環境に与える影響等」を決議、アニマルウェルフェア自体が薬剤耐性菌の予防につながると明記
- ・ 日本の鶏肉のサルモネラ菌保有率、薬剤耐性菌保有率は、外国産より有意に高い

## 経済・投資

- ・ 世界の大手鶏肉生産業者の一般的な飼育密度は、33～35kg/m<sup>2</sup> 許容値は39kg/m<sup>2</sup>まで。より低い飼育密度が目指されている
- ・ 北米、ヨーロッパの500以上の食品企業は2026年までにベターチキンコミットメントに準拠することを目指している
- ・ 欧米はよりゆっくり成長するスローグロウ種に切り替え始めている
- ・ スタニングなしの屠畜をすることはありえない状態

## 飼育密度の各国比較

|                     |                                                                            |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 農林水産省の密飼いの参考値       | 54kg/m <sup>2</sup>                                                        |
| 日本の一般的な飼育密度         | 50～56/m <sup>2</sup>                                                       |
| EU規制（原則）            | 33kg/m <sup>2</sup>                                                        |
| タイ国の農業規範            | 20～33kg/m <sup>2</sup>                                                     |
| CP Foodsの飼育密度規定     | 33kg/m <sup>2</sup>                                                        |
| Tyson Foods USの飼育密度 | 44%が30kg/m <sup>2</sup> 以下                                                 |
| JBS飼育密度             | 現状は35kg/m <sup>2</sup> ※48%が32kg /m <sup>2</sup> 未満 規定は39kg/m <sup>2</sup> |



# 豚肉は妊娠ストールフリーが最低ライン

肉用豚を生んだ母豚が妊娠ストールに閉じ込められていないことは最低限の福祉

## ワンヘルス

- ・ 妊娠ストールで飼育されると心拍数の上昇、筋肉量の低下、骨密度の減少、骨の強度の減少につながる
- ・ 母豚が拘束されていないほうが、胎児の死亡率の低下につながる

## 経済・投資

- ・ EUは2013年からすでに妊娠ストールフリー
- ・ 世界の1～8位までの食肉大手企業、中国、タイ、ブラジルなどの大手企業が妊娠ストールフリーをコミットしている
- ・ カナダは2029年までに妊娠ストールフリー
- ・ その多くは2025年までに妊娠ストールフリーになる（世界最大の食肉大手JBSなど）
- ・ 法的、または業界ガイドラインとして多くの国で妊娠ストールは廃止に動いている
- ・ 国内最大手の日本ハムが全ての農場で2030年までには妊娠ストールフリー、その他大手食肉企業も後を追っている
- ・ 国内中小養豚場でも妊娠ストールフリー豚舎への切り替えを行う（検討する）農場がでてきている

**世界では2025年、国内でも2030年には妊娠ストールフリーが“普通”の社会**  
 になっていると予測される。

OIE（世界動物保健機関）が、陸生動物規約の中の動物福祉基準「アニマルウェルフェアと豚生産システム」でも、妊娠ストールでの飼育ではなく群飼を推奨

成熟雌豚及び未経産雌豚は、他の豚と同様に、社会的な動物であり、群で生活することを好むため、妊娠した成熟雌豚や未経産雌豚はなるべく群で飼われるものとする

第7.13.12条より引用

# 牛乳・牛肉はつなぎ飼いでないことが最低ライン

ドバイ国際博覧会での牛乳のオフィシャル  
サプライヤーAl Ain Farmsはフリーバーン＋  
毎日の屋外へのアクセスがある飼育



HOME ABOUT US OUR FARMS EXPORT CONTACT US العربية C

As a leading cow farm in UAE, Al Ain Farms is a peaceful abode for our cows where they are loved, cared, nourished and pampered. Their caretakers attend to their every need right from the moment they join our family as young cows.

The cows spend most of their time happily grazing in the wide expanse of the farm's open airfields, enjoying social interactions with their fellow cows, refreshing daily showers, and even occasional pedicures! This stress-free, hassle-free lifestyle boosts their milk yield and ensures Al Ain Farms milk is full of nourishing goodness.

## ワンヘルス

- ・ つなぎ飼育（運動をさせない飼育）は関節炎、股関節脱臼、跛行、蹄の病気、死亡率、乳房炎、子宮炎、ジストニア、乳頭損傷、胎盤停滞、ケトーシス、細菌性感染症、難産の増加など様々な病気と関連がある。

## 経済・投資

- ・ 世界ではすでに、つなぎ飼育はあまり多くなく、つなぎ飼育農場が多いのは日本独自の課題
- ・ デンマーク、1980年85%がつなぎ→2020年までに禁止
- ・ スウェーデン、春から秋に120日間24時間放牧が義務付け
- ・ スイス、夏60日、冬30日放牧を義務付け。2週間連続して外に出さないと違法
- ・ オーストリア、90日以上放牧が義務付け
- ・ その他の国でも24時間365日つなぎ飼育を行うことは少ない

## 今後の競争

- ・ 牛乳・乳製品は他の畜産物よりも早くから、完璧な代替品が普及しており、植物性ミルクへの代替が世界中で進んでいる
- ・ とくに牛乳、牛肉は環境負荷が高いと考えられており割ける人や企業が増えている  
→より品質をあげない限り発展は厳しい

## 参考：植物性ミルクに参入した乳製品企業

DANON、Lactalis、BelGroup、Sodiaal、Savencia Fromage & Dairy（仏）、Delamere Dairy、Meadow Food（英）、Valio（フィンランド）、FrieslandCampina（オランダ）、DMK、Turm、Müller、Hochland（独）、Arla Foods（デンマーク）、Emmi（スイス）、Granarolo（伊）、General Mills、Chobani、Dairy Farmers of America、HP Hood（米）、Saputo（カナダ）、Epigamia（印）、Yili（中国）、Keytone Dairy（NZ）、Tnuva（イスラエル）・・・



## 更に高い評価を得るためには、放牧を取り入れてください

2018年に策定した日本エシカル推進協議会作成の「ビュッフェ等での食材提供におけるエシカル度チェック：エシカルな食事の提供」でも放牧が規定されている

| 配慮項目  | 気候変動への配慮                                                                                                         | 生態系への配慮                                                                      | 人権への配慮                                                                          | アニマルウェルフェアへの配慮                                                                                    | 農薬の低減                                                                  | 食品ロスの低減                                                                            | プラスチック容器の低減                                                                                              | 消費者向け情報の提供                                                                                                                   |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目の内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育時に環境負荷の大きい畜産物の利用を削減する</li> <li>・食材流通の環境負荷を軽減する</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・絶滅危惧種、希少種を避ける</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェアトレード食品を利用する</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・放牧畜産物を利用する</li> <li>・残酷な飼育方法の食材を避ける</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農産物を利用する</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作りすぎ、食べ残しを防ぐ</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・使い捨てのプラスチック食器等を使わない</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者に選択情報を提供する</li> </ul>                                                             |
| グレード1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベジタリアン食を60%とする</li> <li>・牛肉は使わない</li> <li>・地産地消食材を30%以上使用する</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベニザケ、クロマグロ、ニホンウナギは使わない</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーヒー、紅茶・チョコレート、バナナはフェアトレード認証</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・肉、卵、乳製品：オーガニック又は放牧100%</li> <li>・フォアグラ、仔牛は使わない</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜：オーガニックまたは自然農100%</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作りすぎない</li> <li>・食べ残しがないように配慮する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・使い捨て食器を使わない</li> <li>・ペットボトルは使わずウォーターディスペンサーで飲み物を提供する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー表示をする</li> <li>・使用食材を明記する</li> <li>・宗教対応を明記する</li> <li>・ヴィーガン対応を明記する</li> </ul> |
| グレード2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベジタリアン食を45%とする</li> <li>・牛肉は使わない</li> <li>・地産地消食材を20%使用以上する</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベニザケ、クロマグロ、ニホンウナギは使わない</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーヒー、紅茶・チョコレート、バナナはフェアトレード認証</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・肉・卵・乳製品：オーガニック又は放牧60%</li> <li>・フォアグラ、仔牛は使わない</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜：オーガニックまたは自然農60%</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作りすぎない</li> <li>・食べ残しがないように配慮する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・使い捨て食器を使わない</li> <li>・ペットボトルは使わずウォーターディスペンサーで飲み物を提供する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー表示をする</li> <li>・使用食材を明記する</li> <li>・宗教対応を明記する</li> <li>・ヴィーガン対応を明記する</li> </ul> |
| グレード3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベジタリアン食を30%とする</li> <li>・牛肉の提供を減らす</li> <li>・地産地消食材を10%以上使用する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベニザケ、クロマグロ、ニホンウナギの利用量を減らす</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーヒー、紅茶はフェアトレード認証</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・肉、卵、乳製品：オーガニック又は放牧30%</li> <li>・フォアグラ、仔牛は使わない</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜：オーガニックまたは自然農30%</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作りすぎない</li> <li>・食べ残しがないように配慮する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・使い捨て食器を使わない</li> <li>・ペットボトルは使わずウォーターディスペンサーで飲み物を提供する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー表示をする</li> <li>・使用食材を明記する</li> <li>・宗教対応を明記する</li> <li>・ヴィーガン対応を明記する</li> </ul> |



# 悪いものを排除する＋一部良いものを増やして特徴にする基準案

|                                                  | 卵                                                             | 鶏肉                                                                    | 豚肉                                                  | 牛乳                                     | 牛肉                                     |
|--------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|
| <b>最低ライン</b><br>(国際的にみ<br>るとやや劣<br>る)            | 調達するすべての卵・卵製品がケージフリーの卵であること                                   | 飼育密度を33kg/m <sup>2</sup> 以下、暗期6時間以上、自然光あり、スタニングありで飼育・屠畜されていること        | 妊娠ストールフリーの農場から来た豚肉であること                             | つなぎ飼いフリー（フリーバーン、フリーストール、放牧）の農場からきていること | つなぎ飼いフリー（フリーバーン、フリーストール、放牧）の農場からきていること |
| <b>十分な評価が<br/>得られるレベ<br/>ル</b>                   | ケージフリーで、かつ飼育密度が1394cm <sup>2</sup> /羽以上、かつ、放牧の割合を増やす          | 地鶏（地鶏肉の日本農林規格）でかつスタニングされた鶏肉であること                                      | 母豚は妊娠ストールフリーで、かつ肥育豚は放牧で飼育された豚肉であること                 | 放牧されている搾乳牛の牛乳であること                     | 放牧で飼育された牛の牛肉であること                      |
| <b>高い評価を得<br/>られるレベル</b>                         | 放牧の卵とし、オーガニックの卵の割合を増やす                                        | ベターチキンであること、又は地鶏でかつガススタニングされた鶏肉であること                                  |                                                     |                                        |                                        |
| <b>認証</b><br>※国内認証で十分なAWが担保されるものは不足<br>※海外の認証はある | <b>鶏卵競争規約</b> で平飼い、放牧は縛りがある認証にする場合はケージフリーかどうかを判別つくものでなくてはならない | 国内で飼育密度とスタニング有無を確約できる認証はない<br>※海外だとGlobal Animal Partnership step2を取得 | 国内で妊娠ストールフリーを確約できる認証は <b>やまなしアニマルウェルフェア認証★3つ</b> のみ | 国内でつなぎ飼いフリーや放牧を確約できる認証はJASの有機畜産（放牧）    | 国内でつなぎ飼いフリーや放牧を確約できる認証はJASの有機畜産（放牧）    |

## ※参考

# ベターチキンとは、ヨーロッパと北米の業界と動物福祉団体の設定した基準

## Better Chickenコミットメント (ヨーロッパチキンコミットメント)

- 国に関係なく、EU動物福祉法と規則を遵守すること
- より福祉的な品種の選択 (Hubbard JA757, 787, 957, or 987, Rambler Ranger, Ranger Classic, and Ranger Gold, その他RSPCAの肉用鶏認証プロトコルに適合した種)
- より広いスペース (最大飼育密度 : 30kg / m<sup>2</sup> )
- 自然光を含む少なくとも50ルクスの光
- 1,000羽の鳥につき最低2メートルの使用可能なとまり木スペース、および2種類のつつく素材
- 人道的な屠畜 (不活性ガスや多段階ガス充填システムを使用した制御されたガススタニング、または生きた状態で逆さ吊りをしない有効な電気スタニング)
- 第三者による監査
- 基準の遵守状況の年次報告



## 畜産と持続可能性

## 持続可能性に係わる問題点

### 生態系に与える影響

- 森林や草地等生態系の破壊
- 放牧地の荒廃
- 生物多様性の喪失
- 野生動物の減少

### 地球温暖化に与える影響

- 地球温暖化ガスの大量発生

### 資源に与える影響

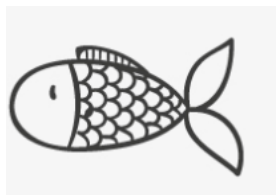
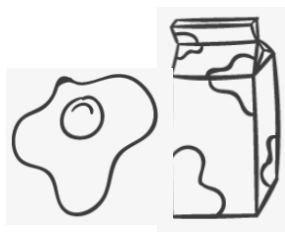
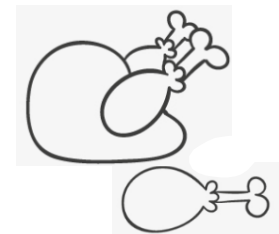
- 水資源の過剰利用
- 水資源の汚染
- 食料資源の過剰利用
- 海洋資源の過剰利用

### 人々に与える影響

- 公衆衛生の悪化
- 非人道的な行為の助長
- 差別の助長
- 人権侵害

**生産・消費量の大幅な削減**

**動物福祉に配慮した飼育への転換**



# 人類共通の課題解決にむけて



## 動物性タンパク質は**良いものを少量に**



高いアニマルウェルフェア  
に配慮したもの

※効率だけを重視してきた国内畜産から離れる足がかりを作ってください。

※畜産分野で発生する、労働安全や、屠畜や殺処分や部位切除などによる労働者の心的負担、外国人の雇用などの課題も重要です。ディーセント・ワークに関する課題でもアニマルウェルフェアは重要です。



代替肉や代替卵、代替魚などを植物性たんぱく質への移行

※大豆やえんどう豆、マイコプロテイン、培養肉の市場や開発、資金獲得は急激に競争が激しくなっています。シンガポールはすでに培養肉が販売されており、その他の国でも製造工場が立てられていっており、日本は遅れを取ってしまっています。